



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

— 2017 年度 分野別研修事業 —

(終了時評価—2018 年 4 月)

### 個別技能向上（実習）コース〔運営管理グループ〕【鯨類目視調査】

#### 研修生受入の概要

研修コース名	個別技能向上（実習）コース〔運営管理グループ〕【鯨類目視調査】
参加国及び参加人数	1 か国 1 名（ギニア共和国）
研修コース実施の経緯と背景	<p>ギニア共和国は、国際捕鯨委員会（IWC）において、持続的利用を支持するアフリカグループのリーダー的存在であり、我が国にとって重要な協力国である。また、ギニア共和国は、大西洋沿岸アフリカ諸国漁業協力閣僚会議（COMHAFAT）の枠組みにおいても、近隣諸国と協力して自国沿岸域を中心に鯨類目視調査を実施して科学面においてもリーダーシップを発揮しており、その調査結果は IWC 科学委員会においても高い評価を得ている。</p> <p>本コースは、COMHAFAT による鯨類目視調査の科学的信頼性の向上及び我が国との協力関係の強化のため開設したコースである。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2017 年 11 月 20 日～11 月 28 日（9 日間）</p> <p>一般研修： 11 月 20 日（1 日間） （研修場所：日本捕鯨協会）</p> <p>技術研修： 11 月 21 日～11 月 27 日（7 日間） （研修場所：国立研究開発法人 水産研究・教育機構 国際水産資源研究所、国立大学法人 東京海洋大学）</p>
上位目標	関係途上国における水産資源の持続的利用が図られる
研修目標	相手国政府等が推進する水産資源の持続的利用を担う研究者の知見及び技術が向上する。
成果	鯨類目視調査における科学的成果が向上する
活動	<p>1) 一般研修 学科講義：海外漁業協力財団事業説明</p> <p>2) 技術研修</p>

	<p>学科講義：水産（鯨類）資源の持続的利用・管理に係る講義等 西アフリカ沿岸域に分布する鯨類概論、目視調査による資源量推定の方法論</p> <p>演習：ライントランセクトの引き方、データ解析、鯨類生物調査の方法論、鯨類骨格標本の作り方等</p>
投入	<p><b>財団側</b></p> <p>1) 一般研修 人的投入（講師等）： 講師 1 名</p> <p>物的投入（研修資材等）：研修備品等</p> <p>2) 技術研修 人的投入（指導員等）： 1 名程度</p> <p>物的投入（研修資材等）：各講義テキスト、各種関連資料、プロジェクター、パソコン等</p> <p>3) 事業費 0.4 百万円</p> <p><b>受入対象国側</b> 投入なし</p>

## 評価事項

### ◆ 妥当性

#### 1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

我が国にとってギニア共和国は、持続的利用を支持する重要な協力国である。また、同国は、国際捕鯨委員会（IWC）において持続的利用を支持するアフリカグループのリーダー的存在であり、自国沿岸域を中心に近隣国と協力して鯨類目視調査を実施し、科学面においてもリーダーシップを発揮しており、同調査にかかる技術研修のニーズは高い。

本研修コースの研修内容は、鯨類目視調査の担当者のキャパシティ・ビルディングを図るものであり、相手国のニーズに合致していた。

#### 2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修は、水産資源の管理と持続的利用、我が国の取組について、講習・演習等を組み合わせて構成されており、これを実現する施設及び講師を有する研究機関等で研修カリキュラムを実施し、研修実施計画は妥当であった。

#### 3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

指導員、研修監理員を適切に配置する等、日常生活を考慮して実施計画が作成された。

#### 4. その他

特になし。

## ◆ 効率性

### 1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

技術研修では、(国研)水産研究・教育機構国際水産資源研究所及び(国大)東京海洋大学において、鯨類資源の管理・評価を専門とする経験の豊富な講師を配置した。これらの講師及び研修教材等の投入は計画通り実施され、期待される成果を上げた。

### 2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

各カリキュラムの研修日数、内容及び水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

### 3. その他(研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等)

特になし。

## ◆ 有効性

### 1. 研修目標の達成度

研修目標： 関係途上国の水産資源の持続的利用を担う研究者の知見並びに技術が向上する

水産資源の持続的利用に関する一般及び技術研修での適切な指導により、研修生の資源管理に関する知識及び技術は向上し、研修目的は達成された。

### 2. その他(研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等)

特になし。

## ◆ インパクト

### 1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

関係沿岸国の水産資源の持続的利用が図られるという上位目標の達成には、資源調査による科学的信頼性の向上が不可欠であり、資源管理部門の研究者の知識及び技術が向上したことから、その効果は大きい。

### 2. 研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

関係沿岸国の水産資源管理の中核を担う研究者が育成されることにより、対象国及び近隣関係国における水産資源の持続的利用に関する施策の推進に直接的な影響が見込まれる。

### 3. その他(計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等)

特になし。

## ◆ 持続性

### 1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

本研修コースにより、研修生は自国が抱える資源管理に関する問題を解決するための知識及び技術を習得した。このことは、資源の持続的利用を国レベルの施策として推進しようとする自国及び近隣関係国のニーズに合致していること、研修生が引き続き自国の資源の持続的利用の業務に携わること並びに帰国後も習得した知識及び技術の普及が継続されると期待できることから、持続性は認められる。

### 2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上